

# 奈良国立大学機構の経営方針

奈良から世界へ、古代から現代まで、  
深い学びで、次代を拓く、  
多様な人と文化の醸成拠点

## ミッション

(国立大学法人が果たすべき社会的な役割)

- 多様性を包摂し、互いを尊重し高め合う社会の構築に向けて、「社会をリードする女性人材の育成」と「次代を牽引する教員養成」を進める。
- 文理統合的知性の涵養と高度な専門教育により、総合知を持つ人材を育成し、特色ある高度な学術研究を推進する。
- 開かれた大学として、国際的な知の交流を推進するとともに、教育と研究を通じて、地域と社会に貢献する。

## ビジョン

(国立大学法人の長が当該法人のミッションを踏まえて描く、国立大学法人の中長期的な方向性や目指す姿)

- 奈良女子大学と奈良教育大学には、長年にわたり幅広い学問領域をカバーしながら、独自の教育と研究を進めてきた実績があり、こうした両大学が掲げてきた理念に基づいて大学運営に取り組む。その上で、
  - ① 両大学の規模が学際的な対話の推進に適していることを活かして、分野・組織の壁を越えた文理統合的視点の涵養と高度な専門教育を進める。
  - ② 奈良の豊富な文化資源の活用と多様な学術機関・自治体・産業界等との組織的な連携の構築、さらに、国際的な交流と研究の強化を通じて、奈良の魅力や強みを活かす学びと研究を実現する。これらを通じて、学生と教職員が、地域や社会の多様な人々とともに、学び合い、支え合い、高め合う組織を形成する。

# 奈良国立大学機構の経営方針

「奈良女子大学の基本理念」や「奈良教育大学の3つの柱」に掲げる教育研究等を充実させるために取り組む。

## 目 標

ミッションを踏まえて法人の長が描くビジョンを実現するため、具体的に達成を目指す水準。

## 戦 略

目標を達成するために推進すべき計画・方策。

### 教育・研究

今日の課題に応え、未来を拓く 人材育成の基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学問の面白さと奥深さを感じることができる「学問祭」の開催。</li> <li>・両大学による講義「奈良と教育」や科学史などの歴史に関する学修の充実。</li> <li>・すべての学生が、数理・情報・データサイエンスやAIの基礎的なスキルを修得。</li> </ul>
教育研究資源の共有による 学びと研究の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両大学を通じた教養教育や教員養成等に関する連携の推進。</li> <li>・両大学の教員・研究者による分野・組織を越えた協働体制の構築。</li> <li>・両大学のそれぞれの特長を活かした大学院教育の連携の構築。</li> <li>・研究機器の共同利用とその活用知識の共有を通じた研究資源の有効活用。</li> </ul>
時代の要請に応える 教育研究の体制強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手研究者、女性研究者・教員の採用など多様性ある組織の形成。</li> <li>・教育研究の継続性に配慮しつつ、時代の要請に応える教育研究組織の不断の見直し。</li> <li>・国際的な共同研究の推進。</li> </ul>

### 地域連携と 国際化・ 国際連携

地域の文化・学術、自治体、産業界等 との教育研究資源の互恵的活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自治体・産業界等との組織的な連携を構築し、人材の養成と輩出、地域の課題解決に貢献。</li> <li>・「奈良カレッジズ」を通じて、地域の豊かな文化・学術資源を教育研究に活用。</li> <li>・「異分野交流プロジェクトNU cross」により、自治体や産業界等との連携推進。</li> </ul>
国際交流と地域活性化をつなげる 「国際キャンパス奈良」の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両大学がグローバルな視点で教育研究と大学運営を進めるための体制構築。</li> <li>・留学生の受入・派遣の推進と国際交流の推進。</li> <li>・すべての学生を対象とする国際交流体験プログラムを通じた国際理解・異文化理解の推進。</li> </ul>

### 附属学校園

附属学校園の魅力向上と特色化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校園のミッション・ビジョンの明確化。学校園間の連携とその成果の公表。</li> <li>・教育大の附属幼稚園の「こども園化」と幼小中を一体でとらえる構想の推進。女子大の附属学校園は「自由」と「協働」の学びを特色とする教育法の発展。</li> </ul>
----------------	--

### ガバナンス

ガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局の一本化、迅速な業務処理と意思決定のため情報インフラの統一化。</li> <li>・経営戦略の推進のためIR機能の強化と、職員の働き方改革の推進。</li> </ul>
多様な外部人材と 外部資金の戦略的確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーボードによる助言や、「友の会」の設立による開かれた大学運営。</li> <li>・外部資金受入増加のためのファンドレイジング強化。</li> </ul>

# 奈良女子大学の基本理念と教育・研究目標

## 【基本理念】

- 理念1 男女共同参画社会をリードする人材の育成 ー女性の能力発現をはかり情報発信する大学へー
- 理念2 教養教育、基礎教育の充実と専門教育の高度化
- 理念3 高度な基礎研究と学際研究の追究
- 理念4 開かれた大学 ー国際交流の推進と地域・社会への貢献ー

## 【教育目標】

本学は、学生個々の適性・能力を最大限に引き出し、深い学識を備え、情緒豊かで品位ある人材を育成する。また、さまざまな事象を総合的に理解・判断した上で、目的意識をもって主体的に行動し、社会をリードする人材を育成する。

- 目標1 人間性を涵養する教育  
質の高い教養教育を行うことにより、幅広い教養と豊かな人間性を備えた人材を育成する。
- 目標2 創造性を生み出す教育  
各専門分野間で連携のとれた教育を行うことにより、深い専門性を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
- 目標3 専門性を深める大学院教育  
女性が能力を発現しやすい環境の下で高度な専門教育を行い、創造的能力を備えた高度専門職業人及び研究者を育成する。
- 目標4 社会で貢献できる人材を育成する教育
  - 1) 男女共同参画社会の実現に貢献できる人材を育成する。
  - 2) アジア諸国をはじめとする国際社会及び地域社会に貢献できる人材を育成する。

## 【研究目標】

本学は、学問研究の自由のもとに真理を探究し、長期的視点に立った研究を通じて社会・文化の発展に寄与することを目指す。研究活動を通じて生み出した知的成果をもとに、知の拠点を形成するとともに、その知的成果を社会に向かって発信する。

- 目標1 個性的で独創性豊かな研究の推進  
深い洞察に基づく個性的で独創性豊かな研究を推進する。
- 目標2 基礎研究及び応用研究の推進  
高度な基礎研究および社会や時代的要請にこたえる応用研究を推進する。
- 目標3 学際的研究の展開  
各専門分野間の連携に基づき、複雑で重要な諸課題に対する学際的研究を展開する。
- 目標4 地域社会や国際交流を視野に入れた研究の推進  
異なる研究分野間の協力のもとで、地域や国際社会に貢献できる研究を推進する。

# 奈良教育大学の目的・基本的な目標と「3つの柱」

## 【大学の目的】

奈良教育大学は、学芸の理論とその応用とを教授研究し、高い知性と豊かな教養とを備えた人材、特に有能な教育者を育てるとともに、この地方に特色のある文化の向上を図ることを目的としています。

## 【大学の基本的な目標】

奈良教育大学は、創立以来の学問・学芸を尊ぶ学風を継承し、学芸の理論とその応用とを教授研究することにより、豊かな人間性と高い教養を備えた人材、特に有能な教員を養成して、我が国の教育の発展・向上に寄与することを社会的使命とします。

## 【奈良教育大学の3つの柱】

### 1. 人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究

本学は、古都・奈良の中心に位置し、豊かな自然や世界遺産を含む多くの伝統文化遺産に囲まれています。また、奈良国立博物館・奈良文化財研究所との連携によって、奈良で学ぶ喜びを実感しながら、感性を磨くことができます。

このような恵まれた環境の中、全学生数が約1000名という特長を生かし、アクティブ・ラーニングを重視した対話型の授業や、研究室ゼミでの丁寧な指導により、学問・芸術・スポーツ等を深く追究します。

人と対話し、環境や世界遺産と対話することを通して、確かな学力を基盤とするコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など、教員として必要な資質・能力を着実に身に付けることができます。

### 2. 持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成

本学は、附属学校園とともにユネスコスクールに認定されています。また、「持続可能な開発のための教育」(ESD: Education for Sustainable Development)の推進拠点として研究を重ねています。

これからの学校教育は、すべての校種・教科等において、「持続可能な社会づくりの担い手」を育成することが求められます。本学では、環境、文化、平和、人権等、ESDの対象となる様々な課題に対応できるカリキュラムを用意し、教員を目指す全学生がESDについての知識、指導方法を身に付けることができるよう取り組んでいます。

このような教育を通し、「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals)の実現を目指す大学として、地域や社会へ貢献しています。

### 3. 教員養成と教員研修の融合

本学は、「教員養成」と「現職教員研修」を大きな責務としています。教員養成では、実習を含む大学の授業やスクールサポートなどの自主的体験活動が中心となります。教員研修では、本学教員が現職教員へ最新の知見を提供し、アドバイスを行っています。

さらに、本学学生が現職教員研修に参加することや、本学教員が地域の学校や子供との関わりから得た知見を大学の授業に提供することを通し、「教員養成」と「教員研修」の融合を図っています。

この取組は全国的にも高く評価され、大学在学時から教員就職後まで、一貫した実践的指導力と研究遂行能力の育成を行っています。